

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 4 月 24 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580111

研究課題名(和文)日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択意識と母語転移に関する実証的研究

研究課題名(英文)An Empirical Research on selection among intransitive, transitive, and passive verbs in Japanese and language transfer of Japanese learner

研究代表者

杉村 泰 (SUGIMURA, Yasushi)

名古屋大学・国際言語文化研究科・教授

研究者番号：60324373

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本語の自動詞・他動詞・受身の選択は日本語学習者にとって習得が困難な項目の一つである。そこで本研究では日本語母語話者と英語・中国語・韓国語・ウズベク語・マレー語・クメール語を母語とする日本語学習者の選択傾向を比較した。その結果、母語話者は動作主の存在を強く認識しなければ他動詞を選択しにくいのに対し、学習者は動作主の存在を感じれば他動詞または受身を選択しやすいことを指摘した。また、学習者は「火災で家が焼けた」のように自然力による被害を表す場合や「さあ、肉が焼けたよ」のように人為による対象の変化を表す場合、上級になっても受身や他動詞を選択しやすく、母語話者のようには自動詞が使えないことを指摘した。

研究成果の概要(英文)：The correct use of intransitive, transitive, and passive sentences is difficult for L2 learners of Japanese. In this project, we compare the tendency of selections by native Japanese speakers and Japanese learners of English, Chinese, Korean, Uzbek, Melayu, Khmer native speakers. The results of a survey suggest that native Japanese speakers generally abstain from selecting transitive sentences if they are not strongly aware of the existence of an agent. On the other hand, learners of Japanese tend to select transitive sentences or passive sentences if they are conscious of the existence of an agent. Moreover, the results shows, that in events where damage is expressed by natural forces (e.g. "Kasai de ie ga yaketa") or human-induced change to the (semantic role of) theme (e.g. "Sa, niku ga yaketa yo"), native Japanese speakers tend to select intransitive sentences, whereas learners of Japanese tend to select passive sentences.

研究分野：人文学

キーワード：第二言語習得理論 母語転移 日本語学習者 自他動詞 受身 他動性 意志性 対照研究

### 1. 研究開始当初の背景

日本語学習者にとって有対動詞の自動詞、他動詞、受身の選択が困難であることは、守屋(1994)、小林(1996)、中村(2002)、曾(2012)など多くの先行研究で論じられ、例文のように母語話者なら自動詞を使う場合に、学習者は他動詞や受身を使いがちであることが指摘されている。

??さあ、今日の夕食のメニューを決めたよ。( が決まった)

??風で窓が開けられた。( 開いた)

しかし、先行研究では日本語では人為的行為であっても「ナル的」に自動詞が使われやすいことや、学習者の誤用には母語の影響がありそうだとすることが大まかに示唆されるにとどまり、各動詞の文法的性質や母語の文法的特徴について踏み込んだ分析をするには至っていなかった。そのため、日本語教育の観点から母語別・習得レベル別に自動詞、他動詞、受身の選択傾向を明らかにする必要があった。

### 2. 研究の目的

(1)本研究では日本語学習者にとって習得が困難であるとされる有対動詞の自動詞、他動詞、受身の選択傾向の違いと「その要因を明らかにすることにより、日本語の文法指導に貢献することを目的とする。

(2)現在の第二言語習得研究では、母語の影響は第二言語習得の重要な要因の一つであると考えられており(Odlin,1989; Lightbown & Spada,2006)、転移の選択性を説明することが、第二言語習得のメカニズム解明に不可欠である。本研究は中国語、韓国語、英語、ウズベク語、クメール語、マレー語という6つの母語話者の自動詞、他動詞、受身の選択基準を比較することにより、母語転移の現れやすい項目とそうでない項目の特徴の違いを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究では日本語学習者の自動詞、他動詞、受身の選択傾向の違いを明らかにし、日本語の文法指導に貢献するために次の研究方法をとった。

(1)まず、下の ~ のような自動詞、他動詞、受身の選択に関するアンケート項目を60問作成し、日本語母語話者にアンケート調査を行った。これにより、母語話者の自動詞、他動詞、受身の選択傾向を明らかにし、その選択基準(文法的、語用論的条件)を分析した。

さあ、今日の夕食のメニュー( が/を ) 決めた/決めた/決められた)よ。

風でドア( が/を ) バタンと( 開いた/開けた/開けられた)。

もう授業( が/を )( 始まって/始めて/始められて)いるから急ごう。

コーヒーにミルク( が/を )( 入って/入れて/入れられて)飲む。

(2)次に、同じアンケートを使って日本語学習者(中国語、韓国語、中朝バイリンガル、英語、ウズベク語、クメール語、マレー語の各話者)の自動詞、他動詞、受身の選択傾向を明らかにした。

(3)次に、このアンケートを被験者の母語(中国語、韓国語、英語、ウズベク語、クメール語、マレー語)に翻訳したものを作成し、各被験者に実施した。

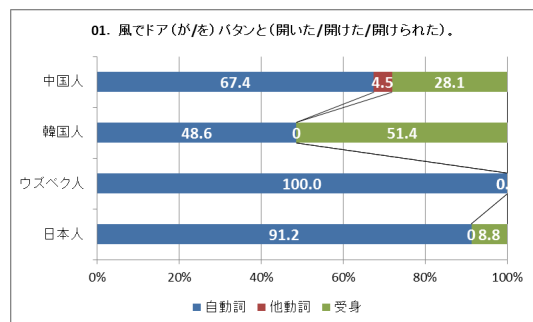
(4)日本語学習者の場合、上の(2)と(3)の集計結果を突き合わせ、母語転移の有無を分析した。その際、各言語話者ごとに習得レベル別(N1,N2,N3)の変化を見ることにより、各話者それぞれの特徴の違いを分析した。

(5)以上の結果、日本語学習者の母語別・習得レベル別の自動詞、他動詞、受身の選択傾向の違いを明らかにし、日本語教育上問題となる点について考察した。

### 4. 研究成果

本研究では日本語母語話者および日本語学習者(中国語、韓国語、中朝バイリンガル、英語、ウズベク語、クメール語、マレー語の各話者)の自動詞、他動詞、受身の選択について調査し、それぞれ選択傾向の違いがあることを明らかにした。

母語別の比較では、例えば次の図のように各アンケート項目ごとに自動詞、他動詞、受身の選択傾向の違いを比較し、日本語母語話者とのずれを比較・分析した。

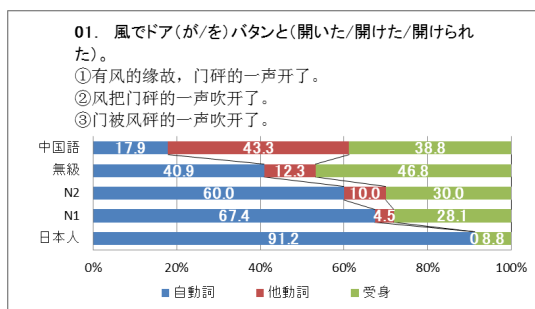


その結果、日本語母語話者は「電池が切れて時計が止まった」のような自発性の高い場合だけでなく、「風でドアが開いた」のような風・光・熱などの自然力による作用の場合にも自動詞が選択されやすいのに対し、中国語母語話者や韓国語母語話者などは、自発性の高い場合は自動詞の選択率が100%近くになるものの、自然力による作用の場合は受身の選択率が高まることを明らかにした。また、

日本語母語話者は、人為的作用であっても「さあ、夕食のメニューが決まったよ」のように自動詞を選択しやすいのに対し、日本語学習者は「さあ、夕食のメニューを決めたよ」のように他動詞を選択しやすいことなどを明らかにした。日本語母語話者はたとえ人為的作用であっても行為の目的や動作主の責任を感じないと他動詞を選択しにくいのである。これに対し、日本語学習者は自然作用 = 自動詞、動作主の意志的行為 = 他動詞、被害 = 受身というかなり単純な基準で選択していることを明らかにした。

さらに中国語話者・英語話者・マレー語話者・クメール語話者は相対的に日本語母語話者とのずれが大きく、韓国語話者とウズベク語話者は相対的に日本語母語話者とのずれが小さいことを明らかにした。ただし、ウズベク語話者はかなり日本語母語話者の感覚に近いのに対し、韓国語話者の場合は、特に自然作用を表す場合に受身を過剰使用する傾向があることを指摘した。また、中朝バイリンガルの学習者は、中国語話者と韓国語話者の中間的な選択傾向を示すことも指摘した。

それから、各言語話者の習得レベル別選択傾向については、次の図のように母語の自動詞表現、他動詞表現、受身表現の選択傾向と比較しながら分析した。その結果、大体において、習得レベルが低いと母語での選択に近い反応を示すが、習得段階が高くなると日本語母語話者に近い反応を示す傾向があることを明らかにした。ただし、アンケート項目によって、初めから日本語母語話者に近い反応を示すものもあれば、なかなか日本語母語話者のような反応にはならないものもあり、母語によって日本語教育上力を入れて教える部分とそうでない部分があることを指摘した。



本研究によって、これまであまり詳細に分析されてこなかった母語別・習得レベル別の選択傾向が明らかとなった。しかし、これらについては、まだおおまかな傾向が明らかになつたにすぎず、本研究を踏まえて今後さらに選択傾向の要因を追究する必要がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計8件)

杉村 泰 (2016)「クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について - 人為的事態の場合 - 」『名古屋大学言語文化論集』第37巻第2号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.49-62, 査読無

杉村 泰 (2015)「クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について - 動作主の不注意による対象の変化を表す場合 - 」『ことばの科学』第29号, pp.105-120, 査読無

杉村 泰 (2015)「クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について - 非人為的事態の場合 - 」『名古屋大学言語文化論集』第37巻第1号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-44, 査読無

杉村 泰 (2015)「日・中・韓・ウズベク語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択」『東アジア日本語・日本文化研究』第19集 特別号(東アジア日本語日本文化研究会), pp.1-18, 査読有

杉村 泰 (2015)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について - 人為的事態の場合 - 」『名古屋大学言語文化論集』第36巻第2号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.47-62, 査読無

杉村 泰 (2014)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について - 動作主の不注意による対象の変化を表す場合 - 」『ことばの科学』第28号, pp.145-156, 査読無

杉村 泰 (2014)「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について - 非人為的事態の場合 - 」『名古屋大学言語文化論集』第36巻第1号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-45, 査読無

杉村 泰 (2014)「延辺大学生における日本語の自・他・受身の選択 - 中国語母語話者と中朝バイリンガルの比較 - 」『中朝韓日文化比較研究叢書 日本語文化研究』第三輯(上), 延辺大学出版社, pp.548-554, 査読有

[学会発表](計12件)

杉村 泰「動詞の自他受身の選択について - 日本語教育と中日カルチャーショックの観点から - 」, 広東省民弁本科高校日語專業骨幹教師研修会, 2016年3月26日、

中国・広東外語外貿大学南国商学院  
杉村 泰「日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択」2016年「日本言語文化研究」学術研究会、東華大学・名古屋大学・上海外国語大学、2016年3月20日、中国・東華大学  
杉村 泰「韓国人日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択 - 母語転移の可能性について - 」韓国日本言語文化学会 2015年度秋季国際學術大會、2015年11月7日、韓国・高麗大学校  
杉村 泰「日・中・韓・中朝バイリンガルにおける日本語の自・他・受身の選択」2015年度第2回日本語教育学会研究集会、2015年6月13日、名古屋市・名古屋大学  
杉村 泰「台湾人日本語学習者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について - 動作主の不注意および被害を表す場合を中心に - 」2015年中國文化大學日本語文學系國際學術研討會 - 日本に関する教育と研究 言語と文学、そして文化その他 - 、2015年5月9日、台湾・中國文化大学  
杉村 泰「日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択」 「日本言語文化研究」学術研究会、東華大学・名古屋大学・上海外国語大学、2015年3月22日、中国・東華大学  
杉村 泰「韓国語・中国語・日本語話者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択」韓国日本學會 第90回 國際學術大會、2015年2月7日、韓国・東國大学校  
杉村 泰 專題講演「台湾人日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択」2014年台中科技大學應用日本語学科國際シンポジウム、2014年11月21日、台湾・台中科技大学  
杉村 泰「韓国語話者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択」日韓學術交流会 言語文化を巡って、2014年8月24日、名古屋市・名古屋大学  
杉村 泰「中国語を母語とする日本語学習者における日本語の自・他・受身の選択」第六屆漢日對比語言學研討會、2014年8月21日、中国・中国人民大学  
杉村 泰「中・韓・ウズベク語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択」第15回東アジア日本語・日本文化フォーラム、2014年2月7日、九州大学  
杉村 泰「延辺大学生における日本語の自・他・受身の選択 - 中国語話者と中朝バイリンガルの比較 - 」第三回中日韓朝言語文化比較研究國際シンポジウム、2013年8月20日、中国・延辺大学

〔その他〕  
ホームページ等  
上記論文の掲載

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~sugimura/achievement/3paper.htm>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

杉村 泰 (SUGIMURA, Yasushi)  
名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・教授  
研究者番号：60324373

### (2) 研究協力者

周 英 (ZHOU, Ying)  
(中国) 華東政法大学・外国語学院日語専業・副教授

朱 芬 (ZHU, Fen)  
(中国) 華東政法大学・外国語学院日語専業・講師

張 善実 (Zhang, Shanshi)  
(中国) 上海師範大学・外国語学院日語系・講師

陳 曦 (CHEN, Xi)  
(中国) 西安外国語大学・日本文化經濟学院・教授

李 東哲 (LI, Dongzhe)  
(中国) 延辺大学・外国語学院日語系・教授

全 鍾美 (JEON, Jongmi)  
(韓国) 釜山外国語大学校・日本語学部・副教授

李 善姬 (LEE, Sunhee)  
(韓国) ソウル女子大学校・日本語学部・副教授

マッシミリアーノ・トマシ (TOMASI, Massimiliano)  
(アメリカ) ウェスタンワシントン大学・教授

ジュマエフ・ラヒモナリ (JUMAEV, Lakhmonali)  
(ウズベキスタン) タシケント法科大学・名古屋大学日本法教育研究センター・講師

ジャミラ・モハマド (MOHD, Jamila)  
(マレーシア) マラヤ大学・予備教育部日本留学特別コース・教授

マカラ・ハン (HAN, Makara)  
(カンボジア) 王立プノンペン大学・外国語学部日本語学科・講師